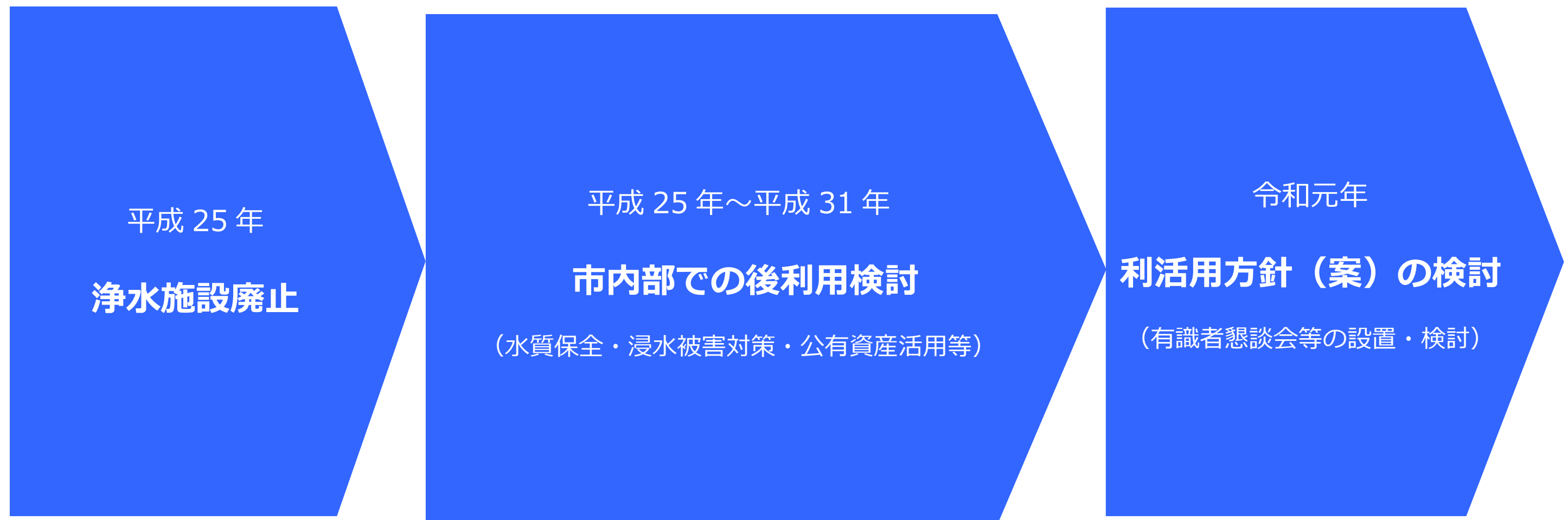


旧豊田貯水池利活用方針（案）（中間とりまとめ）



郡山市財務部公有資産マネジメント課

1. これまでの経過



2. 着眼点（論点）の整理

（1）関連する郡山市の計画・取組みの整理

項目	ポイント	着眼点
郡山市まちづくり基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 国内外に発信できる、自慢の地域資源があるまち 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち 市民生活に活気があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち 環境にやさしく自然豊かな、住んでいてよかったなと思えるまち 誰もが安心して快適に暮らせるまち 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち 	歴史・文化 子ども・市民交流・健康 みどり・環境 防災 まちづくり
2019年度SDGs未来都市等提案書サマリー	<ul style="list-style-type: none"> 創造事業 全世代の住民の「真の健康」を達成 環境～豊かな「体感環境」～ (グリーンインフラとグレーインフラのベストミックス) 	子ども・市民交流・健康 みどり・環境
郡山市都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> 郡山市の市街地形成のシンボルとして、隣接する開成山公園との役割分担に留意して利活用方針を検討 市民の健康増進や憩いの場 災害時における避難場所 	歴史・文化 みどり・環境 子ども・市民交流・健康 防災
郡山市低炭素まちづくり計画	<ul style="list-style-type: none"> まちなかで歴史と緑を感じるまちづくり 高齢者が健康に、安心して暮らせるまちの形成 	歴史・文化 みどり・環境 子ども・市民交流・健康

（2）これまでの検討内容

項目	ポイント	着眼点
①庁内	<ul style="list-style-type: none"> 浸水被害対策への活用 ※集中豪雨対策としての活用は、浸水被害対策本部において検討 郡山市の魅力ある都市景観の貴重な水辺空間 ※旧豊田貯水池整備にかかる公有資産活用調整会議作業部会において検討 歴史的な役割を踏まえた学習への活用 	防災 歴史・文化 みどり・環境
②議会 公有資産の有効活用に向けた提言書	<ul style="list-style-type: none"> 旧豊田浄水場跡地の一部について、安全性を確保のうえ、駐車場や自由広場等として暫定利用できるよう、必要最低限の整備に向け対応 将来の利用計画についても、早急に検討 	まちづくり
③市民等意見 市民意見調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> 最終的な利用方法としては、駐車場（32.2%）、新たな公共施設と駐車場（27.5%）、水辺空間を活かした公園（16.0%）、子どものための施設など 	まちづくり
郡山ランドデザインProject	<ul style="list-style-type: none"> 地下駐車場の設置 交通結節機能（ターミナル） 利用に関する自由度の高い市民の憩いの広場・イベント会場（イベント基地） 	まちづくり 子ども・市民交流・健康

（3）旧豊田貯水池の利活用方針に係る着眼点

着眼点①：歴史・文化

- 郡山市の歴史・文化の伝承、親しみの醸成
- 子どもたちの学びの場

着眼点②：みどり・環境

- まちなかで緑を感じる潤いの空間
- SDGsの達成に資するグリーンインフラ

着眼点③：子ども・市民交流・健康

- 市民が集う活気あふれる空間
- 高齢者をはじめとする全世代の健康福祉の増進
- 子どもが遊べる空間

着眼点④：防災

- 災害時の避難場所として市民の安全・安心を形成
- 周辺施設（開成山公園、21世紀記念公園等）との役割分担・連携

着眼点⑤：まちづくり

- 郡山市の中心エリアの魅力向上
- 交通結節機能の形成

3. 着眼点（論点）を踏まえた有識者会議での意見

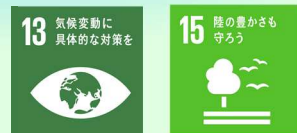
①歴史・文化



ポイント

- ため池としての旧豊田貯水池の歴史**
 - ・**貯水池内面の石張**
 - ・近代水道の創設
 - 「今日の郡山市の礎を築き、命の水瓶であったという飲料水の歴史」
- 安積疏水の歴史**
 - ・将来の子どもたちのために遺すべき**歴史的遺構**
 - ・**安積疏水の流入水路**
- 樹齢 300 年を超えるマツ**
 - ・いにしへの歴史を伝えるマツは重要であるため現状保存
- 歴史・文化施設**
 - ・隣接する「**こおりやま文学の森**」のトレイルとのつながり
- 郡山の地勢**
 - ・西に猪苗代湖、東に阿武隈山地、北は安達太良山

②みどり・環境



ポイント

- SDGs 体感未来都市こおりやま**（2019 年度SDGs 未来都市等提案書サマリー）
 - ・**良好な環境**は成長・発展の源泉
 - ・グリーンインフラとグレーインフラのベストミックス（環境に対する意識を高め、一人ひとりの行動変容を促す）
- 安らぎと潤いのある市街地の景観**
 - ・**自然的なみどりや水辺**に触れられる空間
- 生き物の生息・生育空間**
 - ・**都市の生物多様性**を支える重要な役割
- 敷地の大きさを活かしたグリーンインフラ**
 - ・敷地からの雨水流出は**グリーンインフラ**で抑制し下流域の浸水被害を低減
 - ・一時貯留した敷地内の雨水は、湿地や池・水田等に活用

③市民交流・子ども・健康増進



ポイント

- SDGs 体感未来都市こおりやま**（2019 年度SDGs 未来都市等提案書サマリー）
 - ・「全世代健康都市圏」の創造
- 本物の自然体験**
 - ・近年、**教育**において重視される**体験活動**の場
 - ・子どもたちが地域の産業、生活・文化的環境、歴史、自然環境などを学べる場
- 市民交流**
 - ・人が交流し、明るい声が聞こえる場所、みんなが集まれるオープンなシェアスペース
 - ・施設の**運営方法の検討**
- 開成山公園との連携**
 - ・運動機能の中核を担い、イベント会場にもなっている**開成山公園との連携**

キーワード

「多様性・安全性・柔軟性」

④防災



ポイント

- 水害対策**
 - ・**グリーンインフラによる水害対策**
 - ・**ゲリラ豪雨**などを想定（郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン）
 - ・既設の雨水貯留施設の継続利用
- 防災機能の補完**
 - ・開成山公園及び21世紀記念公園とともに、**防災施設**として一体的に利用

⑤まちづくり

ポイント

- 未来の変化に対応できるまち**
 - ・将来の課題に対応できる柔軟性
 - ・新しい時代に新しい機能を持たせられるストック
- 歴史と緑の生活文化軸**
 - ・郡山市市街地形成のシンボル
 - ・歴史や緑などの資源を生かし、自然の魅力あふれる都市環境の形成
- 歩きたくなるまち**
 - ・歩行者・自転車等の人優先の安全で快適な道路空間の創出
 - ・歩く機会の増加により市民の健康増進



4. 新たに配慮すべき視点【台風19号被害への対応を踏まえて】

◆台風19号による被害状況

●台風19号の接近・通過時期

- ・2019年10月12日(土)午後～
- ・2019年10月13日(日)未明

●降水量(12日正午から13日午前4時まで)

- ・中田ふれあいセンター(東部) 284.5mm
- ・芳賀地域公民館(東部) 281.5mm
- ・谷田川小学校(東部) 274.5mm
- ・福島河川事務所(北部) 218.0mm
- ・郡山市役所(中央) 173.0mm

※出典：気象庁をはじめ国県市が設置する雨量計データ

気象庁の12時間降水量 170.5mm

【観測史上1位】

●人的被害

死者6名、負傷者1名

●家屋被害

浸水被害：21,331世帯(全世帯の14.9%)

●河川被害

- 〈1〉国土交通省管理河川
 - ・阿武隈川：越水6箇所、溢水1箇所
- 〈2〉福島県管理河川
 - ・谷田川：決壊2箇所、藤田川：決壊1箇所、逢瀬川：越水(若葉町、富久山町久保田付近)、笹原川：越水(安積1丁目付近)
- 〈3〉郡山市管理河川
 - ・決壊等なし

●被害状況写真



出典：郡山市資料

●浸水区域



◆気候変動を前提とした各種制度設計の必要性

SDGs 未来都市実現に向け、
特にゴール13(「気候変動に具体的な対策を」)を
重要視したまちづくりを推進

「2050年 二酸化炭素排出量実質ゼロ」への賛同

(2019.11.28)

世界102都市、国内9都市が賛同(福島県では郡山市が初)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

気候変動対応を強く意識した
旧豊田貯水池の利活用方針策定の必要性
「防災」「減災」「リスクマネジメント」

5. 旧豊田貯水池利活用方針コンセプト（案）

【コンセプト】 みんなで育てる 未来へ受け継ぐ 郡山のフロンティアスピリッツ

【目指す姿】

未来に受け継ぐ 学びあふれる みどりの空間

郡山の未来を担う子どもたちのための、多様で豊かな学びあふれる空間を目指します。農業体験や環境学習・自然遊びなどを通して、子どもたちの生きる力を育み、後世に受け継いでいきます。

環境と安全に配慮した みどりの空間

多様な動植物が生息できる自然環境が残っており、誰もが安心して快適に過ごせる、みどりあふれる空間を目指します。災害時には他の防災施設等と連携した活用を目指します。

郡山の歴史を感じられる 水辺とみどりの空間

郡山の礎となった安積開拓の歴史（フロンティアスピリッツ）を感じ、市民に安らぎと癒しを与える水辺空間とみどりの空間を守り育てていきます。

「SDGs 体感未来都市 こおりやま」を支える みどりの空間

気候変動への対応など、持続可能なまちづくりに向けた先導的取組を進めていく「SDGs 体感未来都市こおりやま」の実現に資するみどりの空間を目指します。

【実現化方針】 多様な主体の参画の推進

市民が集い、活気あふれる空間が求められています。市民、事業者、行政など、多様な主体が、計画、整備、管理運営など各所で参画する仕掛けを導入することで、「自分たちの場所」という意識づけを行い、愛され続ける空間を実現します。

【実現化方針】 自然を活用した浸水対策

地盤面が低く、雨水が流れ込みやすい旧豊田貯水池では、雨水を一時的に貯留し、一度に大量の雨水を流さない対策が求められています。既設の雨水貯留槽だけではなく、グリーンインフラも組み合わせた浸水対策を実現します。

【実現化方針】 歩きたくなる道の整備

旧豊田貯水池は開成山公園エリアと中心市街地エリアを結ぶ直線上にあり、両エリアを訪れる人が車で通過する位置にあります。車を止められる場所を確保し、歩きたくなるような道を作ることで、賑わいの拠点を結ぶ軸としての空間を実現します。

体験

【実現化方針】 体験活動ができる空間の創出

子どもたち等の生きる力を育むため、体験学習の機会や場が求められています。農業を体験できる水田や畑によって、土に触れ、汗を流し、収穫の喜びを得るといった豊かな学びの空間を創出します。また、農地が身近にあることで、郡山の基幹産業である農業が、市民にとって魅力的に感じられるものになることが期待されます。

【実現化方針】 自然を体験できる自由な遊び場の創出

子どもたち等が自然の中で遊べる場所が求められています。まちなかの貴重なまとまったみどりの空間を活かし、体全体で五感を使って自然を体験できる自由な遊び場を創出します。

保全

【実現化方針】 動植物の生息地・生育地の保全

郡山のまちなかでは宅地化により、生物の多様性が失われています。旧豊田貯水池の自然を活かし、動植物の生息地・生育地を保全します。また、動植物の環境観察学習の場として活用します。

【実現化方針】 郡山を感じられる自然空間の創出

旧豊田貯水池は、樹齢約300年ともいわれるマツの古木を始めとする樹木やヨシの群落が息づき、多様な鳥類が生息するみどりの空間であるとともに、郡山の安積開拓の歴史も包含するいわば「小さな郡山」のような場となっています。旧豊田貯水池の資源を活かし、郡山を象徴する市民の癒しと安らぎの空間を創出します。

歴史

【実現化方針】 郡山の安積開拓の歴史の継承

旧豊田貯水池には、郡山の歴史を象徴する安積疏水があります。こうした資源を活かし、今日の郡山の礎を築いた安積疏水の歴史に思いをはせる場として、安積疏水が郡山市民のいのちの水瓶であったことを伝える空間を創出します。

【実現化方針】 水辺空間の創出

旧豊田貯水池は、市民生活を支える水源として近年まで機能していました。かんがい用のため池に始まり、貯水池として機能してきた旧豊田貯水池の歴史を遺し、伝えていく場として、水辺空間を創出します。

気候変動対応型の旧豊田貯水池 「防災」「減災」「リスクマネジメント」

6. 利活用方針イメージ案の概要

	A案 「体験」重視案 体験と遊びがあふれる わたしたちの郡山				B案 「保全」重視案 生物多様性を守り 学び 伝える みどりの広場				C案 「歴史」重視案 安積開拓時代へタイムスリップ ^o 郡山の歴史体感ミュージアム					
概念図														
概要	市民の「体験」を重視 <ul style="list-style-type: none"> ●農業体験エリア <ul style="list-style-type: none"> ・市民の農業体験学習（水田・畑・果樹園） ●自然遊びエリア <ul style="list-style-type: none"> ・自然を体験できる自由な遊び場（冒険遊び場・築山） ●展望エリア <ul style="list-style-type: none"> ・郡山を感じられる自然空間づくり（築山・池） ●イベントエリア <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体の参画の推進（植樹・管理事務所） ●水辺エリア <ul style="list-style-type: none"> ・旧豊田貯水池及び安積疏水関連遺構の再生 				現況のヨシと生物多様性の「保全」を重視 <ul style="list-style-type: none"> ●ヨシ保全エリア <ul style="list-style-type: none"> ・現況ヨシの保全、生物多様性の保全（ウッドデッキ） ●観察エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ原や水辺の野鳥を観察（展望台） ●ビオトープエリア <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習（トンボ池） ●水田エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープの一部として環境学習 ・農業体験学習 ●水辺エリア <ul style="list-style-type: none"> ・水鳥や昆虫等、水辺の生物の保全（野鳥観察小屋） ・旧豊田貯水池及び安積疏水関連遺構の再生 				郡山の「歴史」を重視 <ul style="list-style-type: none"> ●トンネルエリア <ul style="list-style-type: none"> ・開拓の歴史を感じるトンネルを再現（水路トンネル） ●水田エリア・畑エリア <ul style="list-style-type: none"> ・農業を通して開拓の歴史学習（作業小屋・水車小屋） ・農業体験学習（水田・畑） ●広場・植樹エリア <ul style="list-style-type: none"> ・市民が協力して植樹（植樹） ・様々なイベントが一年中開催（広場） ・災害時にも活用 ●水辺エリア <ul style="list-style-type: none"> ・旧豊田貯水池及び安積疏水関連遺構の再生 					
重視した 実現化方針	体験 ◎	保全 ○	歴史 ○	SDGs ◎	体験 ○	保全 ◎	歴史 ○	SDGs ◎	体験 ○	保全 ○	歴史 ◎	SDGs ◎		
イメージ 写真														
3案共通 機能の イメージ	「防災」「減災」「リスクマネジメント」既存資源を活かした防災機能を重視 <ul style="list-style-type: none"> ●広大な敷地と立地を活かした市民の防災学習拠点 ●旧豊田貯水池の緑を活かした雨水の流出の抑制 													

出典: ①国土交通省グリーンインフラの事例 www.mlit.go.jp/common/001180165.pdf www.mlit.go.jp/common/001286039.pdf

②国営海の中道海浜公園 HP <https://uminaka-park.jp/nature/> ③琵琶湖疏水記念館 HP <https://biwakososui-museum.jp/about/> ④名古屋市上下水道局資料 ⑤岐阜市広報

6-1. 利活用方針 A 案（平面図）

体験と遊びがあふれる わたしたちの郡山

市民の「体験」を重視 ～多くの世代が体験できる空間として整備した案～

- 水田や畑での農作業をはじめとした体験活動を行うことで、子どもたち等の豊かな学びの場を提供します。
- 五感を使って自然を体験できる子どもたち等の遊び場を整備し、生きる力を育みます。
- 山々に囲まれた郡山独自の地勢を体感できるように築山や池を配置し、まちへの愛着を醸成します。
- 市民協働による植樹を行い、来たくなる場所としていきます。

【3案共通の防災機能①】防災学習

：現在位置周辺の浸水被害想定がカメラに合成表示されるなど IT を活用した体験や、土のうづくり体験など、市民が気軽に来ることのできる立地の良さを活かし、防災学習の機会を提供します。

【3案共通の防災機能②】雨水の流出抑制

：透水性舗装や植栽を取り入れたグリーントラベルルート、レインガーデンにより、敷地内に降った雨水を緑地にゆっくりと浸透させ、内水氾濫を抑制します。



郡山市の花・木・鳥

市民が郡山を体感できるよう、郡山市の花（ハナカツミ）、木（ヤマザクラ）、鳥（カッコウ）と親しめる場を創出します。



ハナカツミ



ヤマザクラ



カッコウ



市民農園

田んぼや果樹園を設け、体験学習や食育の場としても活用します。



薬草園・ワイルドフラワーメドウ

郡山の生物や植物にとって、より自然に近い生息地・生育地及び薬草園を設けます。



水辺エリア

敷地に降った雨水を活用して水辺空間を整備します。



イベントエリア

市民協働で植樹を行います。広場（芝）では、イベントを開催します。災害時にはテント村等として活用します。



自然遊びエリア

自ら考え、五感で自然を体験することで「生きる力」を育みます。



6-1. 利活用方針 A 案 (3D 図)

体験と遊びがあふれる わたしたちの郡山



6-2. 利活用方針B案（平面図）

生物多様性を守り 学び 伝える みどりの広場

現況のヨシと生物多様性の「保全」を重視 ～生物多様性の保全とともに、敷地全体に環境学習を取り入れた案～

- 現況のヨシを含めた生物の生育地・生息地をなるべく手を付けずに保全し、生物の多様性を学べる環境学習の場として活用します。
- ヨシ原の中央を横断できるようにウッドデッキを整備し、ヨシやヨシに集まる多様な生物を観察できるようにします。
- 水田を有するビオトープを整備し、ヨシ保全エリアとともに、環境学習の場として活用します。
- 野鳥観察小屋や展望台を整備し、水辺に集まる水鳥を観察できるようにします。

【3案共通の防災機能①】防災学習

： 現在位置周辺の浸水被害想定がカメラに合成表示されるなどITを活用した体験や、土のうづくり体験など、市民が気軽に来ることのできる立地の良さを活かし、防災学習の機会を提供します。



【3案共通の防災機能②】雨水の流出抑制

： 透水性舗装や植栽を取り入れたグリーントラベルルート、レインガーデンにより、敷地内に降った雨水を緑地にゆっくりと浸透させ、内水氾濫を抑制します。



郡山市の花・木・鳥

市民が郡山を体感できるよう、郡山市の花（ハナカツミ）、木（ヤマザクラ）、鳥（カッコウ）と親しめる場を創出します。



ハナカツミ



ヤマザクラ



カッコウ



ヨシ保全エリア

現況のヨシを保全します。ウッドデッキを歩きながら、ヨシやそこに棲む生物の観察を行うことができます。



水辺エリア

敷地に降った雨水を活用して水辺空間を整備します。



水辺エリア



野草・観察エリア

築山の展望台から水辺に集まる水鳥やヨシ原の生き物の観察をし、野草等を植栽します。



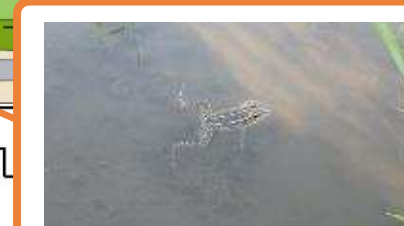
水田エリア

様々な生物の生息地となる水田をビオトープの一部として活用します。また、農業体験の学習の場としても活用します。



野鳥観察小屋

水辺に集まる水鳥を観察小屋から見る事ができます。



ビオトープエリア

水田を含めた一帯をビオトープエリアとし、生物多様性の保全と、観察学習の場として活用します。

6-2. 利活用方針B案 (3D 図)

生物多様性を守り 学び 伝える みどりの広場



6-3. 利活用方針C案（平面図） 安積開拓時代へタイムスリップ 郡山の歴史体感ミュージアム

郡山の「歴史」を重視 ～郡山の歴史をだれもが体感できる機能を取り入れた案～

- 歴史体験学習のため、水田・畑を市民協働で整備し、農業体験学習を行います。
- 築山と水路トンネルを整備し、猪苗代湖の水を水路トンネルで引いてきたことで今日の郡山の発展があったことを体感できるようにします。
- 安積疏水に水を流し池に流入させ、猪苗代湖を再現し、安積疏水の歴史を感じられる空間にします。

【3案共通の防災機能①】防災学習

：現在位置周辺の浸水被害想定がカメラに合成表示されるなど IT を活用した体験や、土のうづくり体験など、市民が気軽に来ることのできる立地の良さを活かし、防災学習の機会を提供します。



【3案共通の防災機能②】雨水の流出抑制

：透水性舗装や植栽を取り入れたグリーントラベルルート、レインガーデンにより、敷地内に降った雨水を緑地にゆっくりと浸透させ、内水氾濫を抑制します。

郡山市の花・木・鳥

市民が郡山を体感できるよう、郡山市の花（ハナカツミ）、木（ヤマザクラ）、鳥（カッコウ）と親しめる場を創出します。



ハナカツミ



ヤマザクラ



カッコウ

トンネルエリア

築山に水路トンネルを整備します。子どもが中を通れるようにします。



水辺エリア

敷地に降った雨水を活用して水辺空間を整備します。

トンネルエリア

薬草園・ワイルドフラワーメドウ

広場（芝）

広場・植樹エリア

石張を残す



水田エリア・畑エリア

昔ながらの農機具を用いて歴史学習を含めた農業体験活動を行います。



薬草園・ワイルドフラワーメドウ

郡山の生物や植物にとって、より自然に近い生息地・生育地及び薬草園を設けます。



畑エリア

イベントエリア

市民協働で植樹を行います。広場（芝）では、イベントを開催します。災害時にはテント村等として活用します。



6-3. 利活用方針C案 (3D 図) 安積開拓時代へタイムスリップ 郡山の歴史体感ミュージアム



1 旧豊田貯水池利活用懇談会名簿

(敬称略)

No.	氏 名	所 属
1	市岡 綾子	日本大学工学部建築学科専任講師
2	臼田 裕一郎	国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長 (兼) 国家レジリエンス研究推進センター研究統括 (兼) 防災情報研究部門長
3	木下 剛	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
4	下田 政博	東京農工大学大学院農学研究院准教授
5	知野 泰明	日本大学工学部土木工学科准教授
6	中野 和典 (座長)	日本大学工学部土木工学科教授
7	安永 愛香	社会福祉法人どろんこ会理事長
8	村上 一郎	郡山市上下水道事業管理者
9	永久保 利弥	郡山市農林部長
10	佐久間 隆博	郡山市財務部長

2 これまでの懇談会での検討経過

○ 第1回会議

開催日

- ・令和元年6月25日

主な会議内容

- ・懇談会設置目的について
- ・旧豊田貯水池利活用検討体制について
- ・旧豊田貯水池利活用に係る各種計画及び取組み状況について
- ・これまでの検討経過について
- ・利活用に係る着眼点について
- ・旧豊田貯水池を取り巻く概況について 等

○ 第2回会議

開催日

- ・令和2年1月31日

主な会議内容

- ・第1回懇談会の振り返りについて
- ・懇談会意見を踏まえた視点について
- ・新たに配慮すべき視点について
- ・コンセプト(案)について 等